

平成 20 年 8 月 19 日

東京都障がい者施策推進協議会「提言・起草案」について

得重純子

誰が見ても分かりやすい「提言」であるべきであると思うことからの意見。  
全体を通して下記の点に疑問がある。

○ どの部分が提言なのか分かりづらい。

現状と提言との区別がつきにくい。

- ・ 現状説明が多すぎる。
- ・ 東京都の計画との区別もつきにくい。
- ・ 「提言」という章を設けるほうが分かりやすい。

○ 提言の骨子を示すべき。

- ・ 今課題とされている問題をもっと前面に出し、解決への道筋を問うべき。
- ・ 人材(施設職員・看護師など)不足や育成は、早急の課題。これに対する対策をもつと求めるべき。
- ・ 国に求めるよう示唆することも大事だが、東京都としての対策を求めるべき。
- ・ 都内の地域格差についても、都が率先して行うことがあるはず。
- ・ 区市町村への指導にとどまらず、都自身にも求めるべきではないか。

○ 提言と思われる文章の語尾が弱い。

- ・ たとえば、20 ページ 「…されなければならない。…と考えられる。…となっている。…望ましい。…強く求めていくべきである。」と国に対しての要求のみ「べき」がつかわれている。

○ 福祉のまちづくりについて

- ・ 心のバリアフリーの促進が必要。理解推進よりもっと積極的な施策が必要。